

かがやきクリエイション21

KOMAKI

概要版

人と緑
かがやく創造のまち

第5次 小牧市総合計画
2000 2009



「連携」からの「創造」を目指して

新たな千年紀、市制45周年の節目の年に合わせ、市民の皆さまのご参加とご協力により、第5次小牧市総合計画を策定しました。

この新しい総合計画「かがやくクリエイション21」の将来像は「人と緑 かがやく創造のまち」です。

これは、大切な自然を守り、環境と調和しながら、市民一人ひとりが生き生きと暮らせるまち、更にはモノづくりの拠点、産業都市としてはもちろん、市民の生きがいや誇り、小牧ならではの文化を創造するまちを目指すという意味を含めたものです。

少子・高齢化、地球規模での環境問題など時代の潮流は、20世紀の延長では、必ずしも真の豊かさを得られないことを示しています。また、地方分権や厳しい財政環境は、今までのまちづくりに対する発想や取り組みへの大胆な転換を求めています。

本市は、先人の努力により、尾張北部の活力ある中核都市として着実に発展してきました。これからも、この総合計画を共通の目標として、市民・企業・行政がそれぞれの役割と責任を果たしながら、連携して小牧らしさがあふれるまちを創造していきたいと考えております。

最後に、この計画策定にあたり、数多くの貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆さまをはじめ、精力的にご審議いただきました総合計画審議会委員、市議会ならびに関係各位に心から感謝申し上げます。

平成12年3月

小牧市長 中野直輝

人と緑 かがやく創造のまち

小牧市のすべての人々、そして自然が

生き生きとかがやくあしたを築くためには、みんなの力が必要です。

合言葉は、「みんなでつくろう楽しいまち みんなで守ろう小牧の自然」

市民と企業、行政が知恵と力を出し合い、

信頼のパートナーシップによって、理想のまちづくりを進めていきましょう。



総合計画策定の趣旨

国際化や少子・高齢化、高度情報化が進展し、加速度を増して社会情勢が変化する今日。その時代的背景と多様化する市民のニーズに対応するため、小牧市は、平成12年（2000年）を初年とする「第5次小牧市総合計画」を策定しました。国や県の動向も踏まえ、新たな時代に即したまちづくりを目指します。

1.市民の価値観の多様化・高度化に対応し、市民憲章が目指す理想のまちに近づくため、行政を総合的・計画的に運営するための指針となります。

2.これまでに育まれた人的、物的資源を有効に活用するとともに、市民がさらに主体的にまちづくりに参加し、個性的で魅力あるまちづくりを進めるための指針となります。

3.市民の生活圏が広がる現在、広域行政の推進や都市機能を分担することが求められており、周辺市町や県、国との間で調整や協議を円滑に進めるための指針となります。

総合計画の意義と役割

「第5次小牧市総合計画」は、この3つの指針となり、その意義を果たしていきます。

また、この総合計画は、望ましいまちづくりを進めていくための市民と行政の共通の「目標」であり、市民のさまざまなニーズに対応するための市民と行政との「約束ごと」として、その役割を担います。





時代の潮流

自立性、選択性の重視と自己責任の確立
 自然の再認識
 地球時代
 少子・高齢化時代
 高度情報化時代



本市をとりまく状況

中部国際空港の開港、現名古屋空港の定期航空路線一元化
 上飯田連絡線の開通、小牧駅以南の複線化
 ピーチライナーの活性化
 名濃道路の開通
 第二東名・名神高速道路などの開通
 桃花台建設事業の終了と定住のまちづくりの推進
 CATVの放送開始やパソコンの普及
 2005年日本国際博覧会の開催
 内なる国際化の促進
 財政構造の変化

まちづくりの主要課題

市民自治を高めるまちづくり
 高齢者が生涯現役で暮らせるまちづくり
 将来を担う心豊かで健康なひとづくり
 個性豊かなまちづくり
 環境にやさしい自然と共生したまちづくり
 広域的視点に立ったまちづくり
 高度で創造的な産業の拠点づくり



総合計画の構成と内容

「第5次小牧市総合計画」は、基本構想、基本計画および実施計画で構成します。

基本構想

基本構想は、目標とする小牧市の将来像を明らかにし、その目標を達成するために必要な施策の大綱などを定めるもので、期間は平成12年（2000年）からの10年間です。基本構想を実現するための計画として、基本計画と実施計画があります。

基本計画

基本計画は、将来像や施策の大綱を実現するために必要な基本的な施策などを体系的に組み立てたもので、期間は平成12年（2000年）からの10年間です。基本計画を実現するための計画として、実施計画があります。

実施計画

実施計画は、基本計画を効果的に進めるためのより具体的な計画で、予算編成の指針となります。期間は3か年で毎年見直すローリング方式により作成します。

基本構想

本市の将来像と基本理念

本市の目指す将来像を『人と緑 かがやく創造のまち』とします。

この将来像を実現するため、『みんなでつくろう楽しいまち みんなで守ろう小牧の自然』を合言葉に、市民・企業・行政がお互いの知恵と力を出し合い、パートナーシップによって、着実にまちづくりを進めます。

まちづくりの主要課題を踏まえ、将来像実現に向け、本市のまちづくりを横断的、総合的に進めるため、次の基本理念を掲げます。

まちづくりの主角を担うひとづくり

市民がゆとりや心の豊かさを感じ、まちづくりの主角として、生涯現役で活躍できるまちづくりを進めます。
将来を担う「たくましく生き抜く力」を備えた心豊かで健康なひとづくりを進めます。



人にやさしい自然と共生したまちづくり

地球環境にやさしい資源循環型のまちづくりを進めます。
市民の誰もがエコロジー（環境にやさしい）でエコノミー（経済的）に活動できる、人にやさしいまちづくりを進めます。



来てみたくなる小牧の顔づくり

市民の知恵と力を生かして、わがまちという誇りや愛着を持つことのできるまちづくりを進めます。
本市の自然的・地理的・歴史的特性を生かした、情報発信力のある個性豊かなまちづくりを進めます。



市民・企業・行政のパートナーシップによるまちづくり

これからの地方分権に対応し、市民主角のまちづくりを進めるため、市民に密着した総合的な行政機関として、スリムで頼りになる市役所を目指します。
市民や企業が主体的にまちづくりに参加するための支援や連携の強化を進めます。



また、まちづくりを体系的に進めるための目標を次のように掲げます。

地域の力を高めるまちづくり

快適でやすらぎのあるまちづくり

健康で安心して暮らせるまちづくり

豊かな心と創造性を育むまちづくり

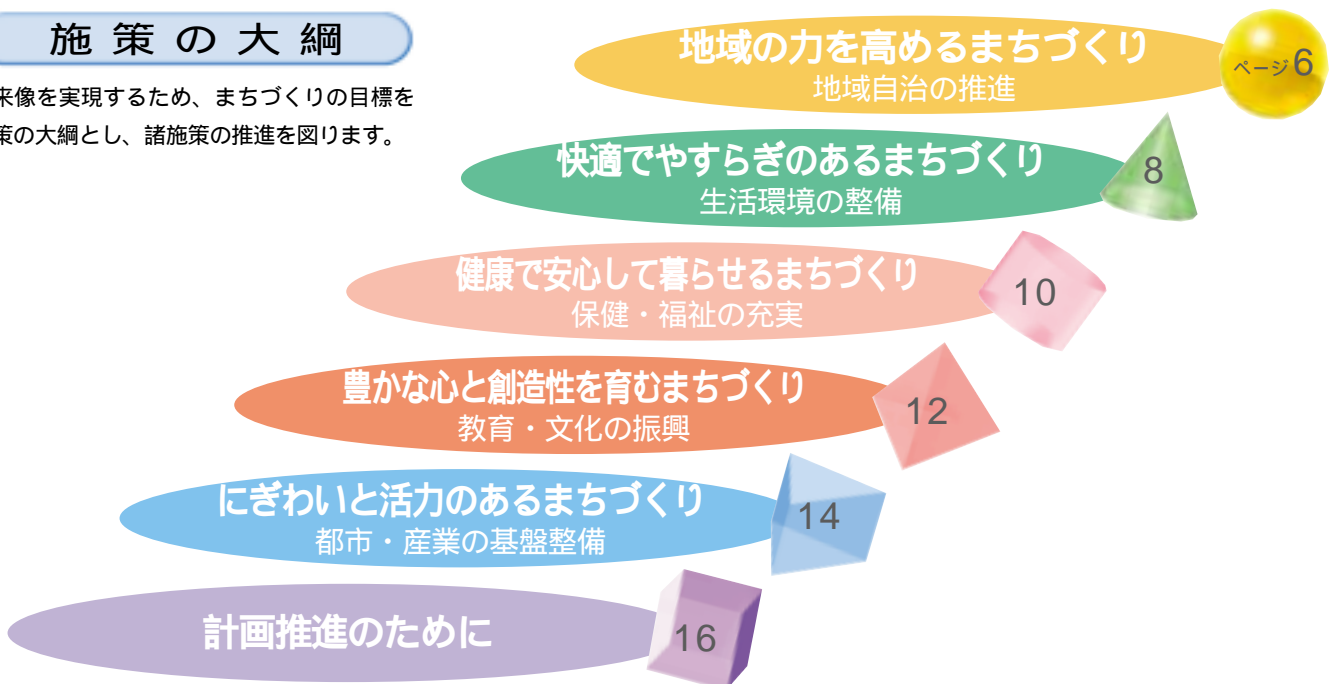
にぎわいと活力のあるまちづくり

基本構想



施策の大綱

将来像を実現するため、まちづくりの目標を施策の大綱とし、諸施策の推進を図ります。



地域の力を高めるまちづくり



目指すのは、誇りと愛着の持てる地域づくり
 市民と企業、行政が
 共に知恵と力を出しあって、
 あたたく活気に満ちたまちづくりを進めます。

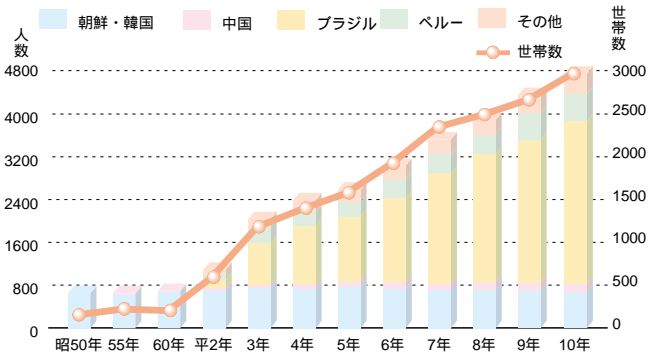
人財創造プロジェクト

地域活動拠点整備
 生涯学習センター、生涯学習キャンパス整備
 高齢者の知恵と力の活用

環境創造プロジェクト

環境にやさしいライフスタイルの普及
 自転車を生かしたまちづくり
 花工場整備、緑化まちづくりセンター整備

外国人登録者数の推移



まちづくりの主角は、もちろん市民一人ひとり。市民の積極的な参加こそが大きな原動力です。そのため、NPO（民間非営利団体）やボランティアをはじめ、さまざまな分野での市民の自主的な活動を応援し、積極的な市民参加を呼びかけます。

更に、市民と企業、行政が一体となったまちづくりを推進。「元気な市民 活気あふれて伸びゆくこまき」を目指します。

まちづくりを進めるうえでの考え方の基本はノーマライゼーション。乳幼児から高齢者まで、すべての人が安心して暮らせるまち、より快適で生きがいを実感できるまちを築くため、福祉団体の活動を支援するとともに、生涯学習キャンパスなど生涯にわたって学習できる環境を整備します。

また、国際化の進展に対応するため、市民の国際感覚を育み、国際交流・協力を支援するとともに、外国人と共生できる環境の整備を進めます。

更に、市民・企業・行政のパートナーシップにより、地域の力を高め、安全な暮らしのできるクリーンなまち、個性豊かな美しいふるさとのまち、花と緑あふれるまちづくりを目指します。



地域自治の推進



連携創造プロジェクト

市民参加、市民活動支援条例制定
まちづくり協議会組織化、支援条例などの整備
市職員の地域活動参加、アドバイザー化



ふれあいセンター



引力創造プロジェクト

景観条例制定
花いっぱい運動・緑化推進





快適でやすらぎのあるまちづくり



うるおいとやすらぎを与えてくれる水と緑。

この大切な自然と共生しながら、
快適に、そして安全に暮らせる
まちづくりを進めます。

環境創造プロジェクト

リサイクルセンター建設、活用
自転車放置防止条例制定、自転車道整備
公共施設など省エネルギー対策及び新エネルギー導入推進
CO₂、有害物質排出規制
水辺空間整備
市民四季の森、農業公園整備
水辺を生かした緑道ネットワーク整備

人財創造プロジェクト

緑地管理協会組織拡充
・高齢者活用



市民四季の森

身近な地域の環境を守り、維持することは、市民が快適に暮らすために欠かせません。特にごみの減量化は重要な課題です。

本市では、積極的な啓発活動やリサイクルセンターの建設などにより、ごみの発生、排出を抑制するとともに、再利用、再資源化の徹底により、循環型社会の形成を進めます。

同時に、太陽光発電をはじめとする新エネルギーや低公害車の導入と普及、公共交通機関の利用促進にも力を入れるなど、環境負荷の低減に努めます。

また、「自らの身の安全は自分で守る」を基本に、地震などの災害に対応できる防災体制、消防・救急体制の充実強化、防犯・交通安全対策を進めます。

きれいな水と美しい緑のある環境は、私たちが健康に暮らすためにはもちろんのこと、あらゆる生き物にとっても大切なもの。

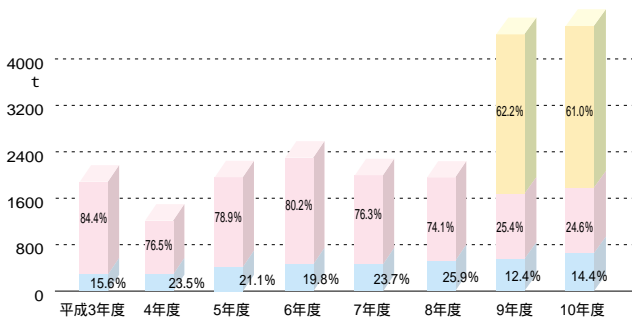
安全でおいしい上水の供給、下水道事業の推進などによる汚水・排水の適正処理、自然環境にも配慮した水辺空間の整備、更には市民四季の森やスポーツ公園の整備、市民参加による公園づくりなどにより、うるおいとやすらぎ空間の確保・保全を進めます。



生活環境の整備 9

再資源化事業

資源ごみ分別収集事業
破砕施設資源回収
資源回収事業奨励金交付事業
(平成9年度より)



連携創造プロジェクト

率先活動の実践
公園ボランティア育成

引込創造プロジェクト

スポーツ公園整備



最終処分場



環境センター



健康で安心して暮らせるまちづくり

10



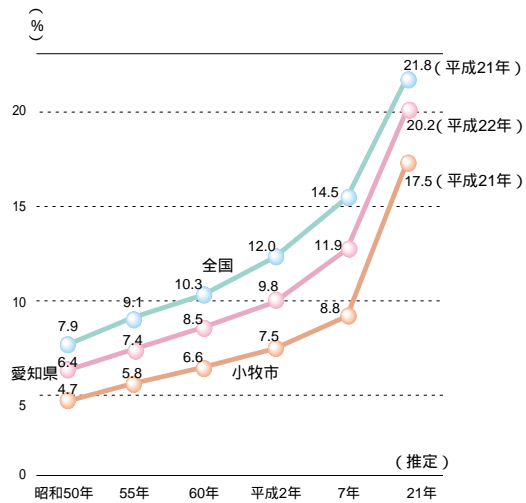
このまちのすべての人が
健康で安心して毎日を送ることができるように。
その願いを実現するため、
保健・福祉の充実を図ります。



人財創造プロジェクト

介護保険制度の確立、適正運営
運動処方ができる施設整備、ウォーキング推進
児童の健全育成の推進
健康な子どもを生ま育てるための支援

高齢化率の推移と推定



長寿社会が進む中、心身ともに健康であることが、実りある人生を送るために欠かせません。

本市では「自分の健康は自分で守り、つくる」ことを基本に、生涯にわたって地域で健康に暮らせるよう、介護保険の適正な運営、健康状態や年齢に合わせた健康づくりの推進、総合的な保健医療サービスの提供など、高齢者福祉や保健医療体制の充実を図ります。

また、安心して子どもを生み、育てることができる環境づくりのため、地域ぐるみの子育て支援、多様な保育ニーズに対応したサービスの提供、児童厚生施設の拡充などを進めます。

更に、ノーマライゼーションやバリアフリーの考え方のもと、高齢者が参加しやすい社会づくり、福祉サービスの充実や障害者福祉意識の高揚、道路や建物などの人にやさしいまちづくりを進め、子どもから高齢者まで、誰もが安心して生き生きと暮らせるまちづくりを目指します。



保健・福祉の充実 11

環境創造プロジェクト

高齢者、障害者にやさしいまちづくり
人にやさしい住まいとまちづくり





豊かな心と創造性を育むまちづくり



変化の激しい時代に豊かな人生を送るために
必要なのは、きっと、たくましく生きる力。
創造性を育み、個性を伸ばして、
自分らしく生きられる社会を実現しましょう。



- 文化・芸術施設整備
- 図書館の整備
- 子育て支援の充実
- ゆとりと特色ある教育などの推進
- 青少年活動拠点整備
- スポーツ有望選手発掘・育成強化



スポーツ公園



引創プロジェクト

総合体育館の活用
小牧山整備・周辺整備事業
いきいきフレッシュエリア構想推進

連創プロジェクト

審議会などへの女性の登用

次代を担う子どもたちが健やかに育つように。個性を生かしつつ、豊かな人間性、創造性や「生きる力」を育成するため、特色ある教育の推進や国際化・情報化への対応、教育環境の充実を図ります。

更に、家庭や地域、そして学校が、力を合わせて子どもたちの健全育成に取り組み、ゆとりと特色のある教育環境を築きます。

また、男女共同参画社会に向けての意識を高揚し、政策・方針決定の場への女性の登用を積極的に進め、女性があらゆる分野で活躍できる環境づくりを進めます。

人とふれあい、自分らしく楽しい時間を過ごすことが、豊かな人生の創造につながります。

生涯スポーツの推進と市民総スポーツ化を目指すとともに、市民の自主的で創造的な文化・芸術活動の促進を通じて、地域への愛着と誇りを育み、小牧らしい文化・芸術の創造を目指します。

小牧といえば小牧山。市のシンボルとしてふさわしい郷土の誇りとなるよう、歴史と自然が調和した整備を進めます。

更に、歴史・文化的資源や自然を生かした施設の整備や、勤労者福祉の充実などにより、ゆとりを実感し、充実した余暇を送れる環境づくりを進めます。

小牧山

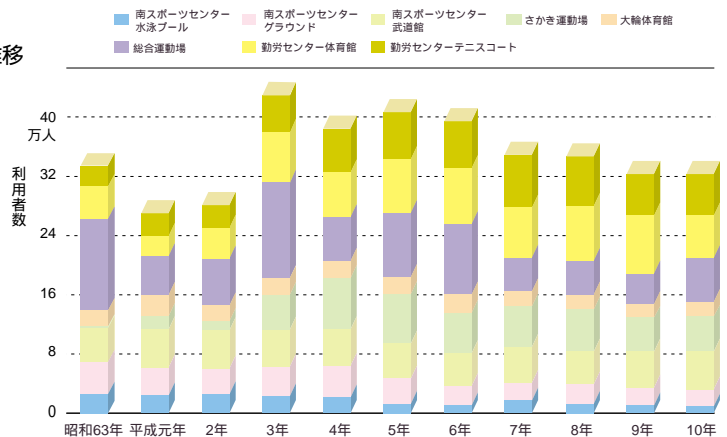


教育・文化の振興



図書館

体育施設 利用者数の推移





にぎわいと活力のあるまちづくり

14



自然や産業など、地域の個性を生かし、
発展させるとともに
それらを機能的に結び、魅力的な都市に。
市の内外から人とモノがいきかう
活力あふれるまちづくりを進めます。

環境創造プロジェクト

- 自転車駐車場整備・サイクルアンドライド
- ISO取得支援
- 遊休農地、耕作放棄地活用
- 歩行者ネットワーク整備
- 生活道路の再整備、バス路線の充実

製造品出荷額等の推移



産業は、にぎわいと活力のあるまちづくりの源です。本市では既存産業の高度化とともに、次代を担う新しい産業の誘導・誘致に努め、地域の個性を生かしたまちづくりを進めます。

商業・サービス業、文化、行政が集積し、市民の生活・交流の拠点としての役割が期待される中心市街地は、市の個性を発信する「まちの顔」でもあります。市民にはもちろん、市外から訪れる人々にとっても魅力的な場所であるよう、歩行者ネットワークの整備や歴史的景観の再生、魅力あるまちなみ形成を進め、小牧らしさを発信できるまちづくりを進めます。

また、秩序とつながりのある市街地を形成するため、土地区画整理事業を進めるとともに、安心して歩ける人にやさしいまちづくりを進めます。

都市生活を支える交通網は、名鉄小牧線や主要幹線道路の整備促進など、市域内外の一体性を高める整備を進めつつ、各種交通手段の機能を分担、連携させることにより、車に依存しすぎない交通体系の確立を目指します。

更に、多様化、高度化する市民ニーズに対応できるよう情報ネットワークの基盤を整備し、市民参加型の高度情報通信システムの確立を図ります。



都市・産業の基盤整備 15



小牧三丁目市街地再開発事業



引創プロジェクト

- A街区再開発事業、D街区整備
- シンボルロード整備
- 市街地道路ネットワーク整備
- 工業立地のための基盤整備
- 高次都市機能の集積



再開発ビル「ラビオ」



計画推進のために

16

地方分権社会の到来とともに、不可欠となってきたのが市民役のまちづくりです。市民と企業、そして行政が共に対話を深め、共に行動し、理想のまちづくりを目指します

そのための第一歩として、市民と行政が情報を共有できるよう、情報の積極的な開示、提供を行います。さらに、広報・広聴活動の充実を図り、市民と企業の行政への参加を促進。「市民による市民のための分かりやすい市政」を進めます。

また、組織・機構の合理化、情報化の推進や計画的・効率的な財政運営により、簡素で効率的な行財政システムを確立。市民サービスの一層の向上を図ります。

更に、周辺市町との連携のもと、各地域の特性を生かした魅力ある広域行政を進めるとともに、分権時代にふさわしい、総合性、創造性、実践性を備えた行政を目指します。



まちづくりの主役は、もちろん市民！
「市民による市民のための分かりやすい市政」
を目指して、さまざまな施策を
効果的、効率的に進めます。

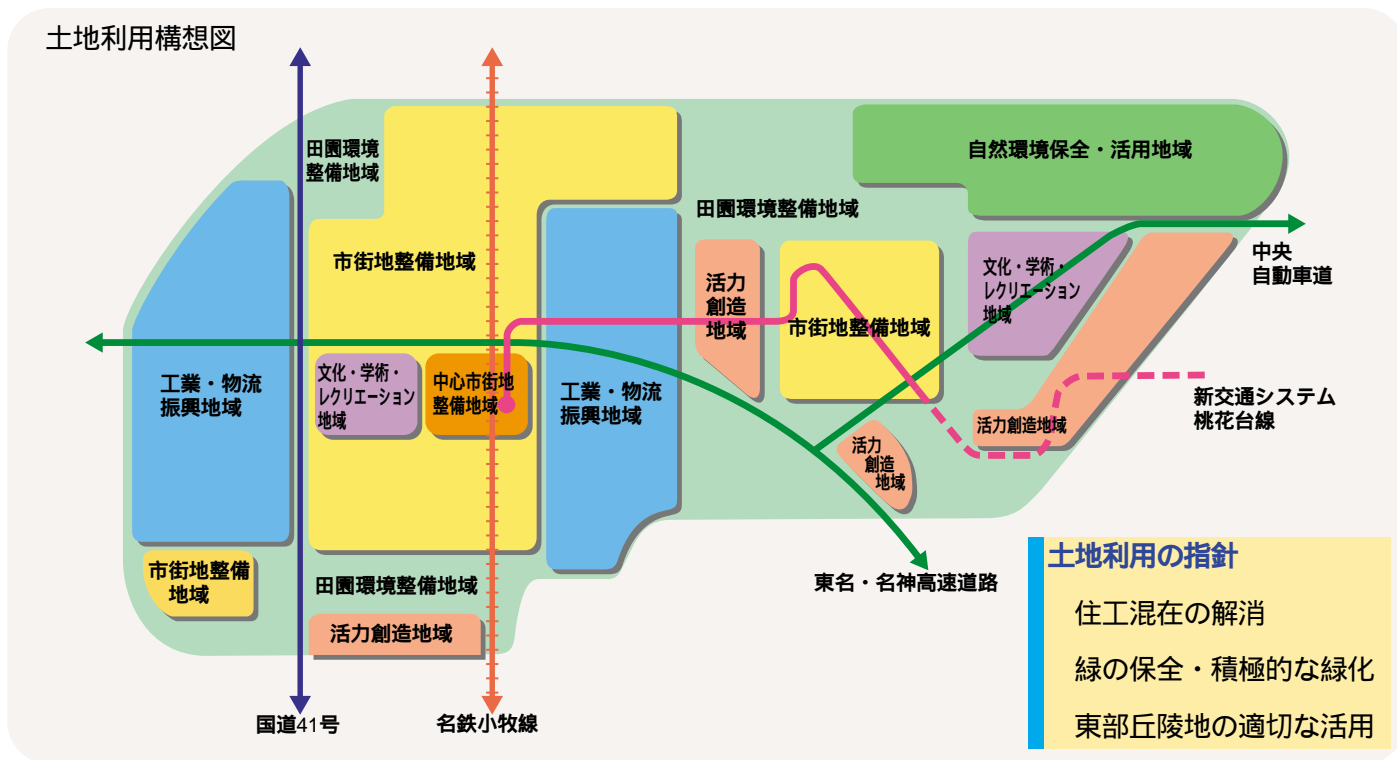


情報コーナーの充実
事務事業評価システム、
目標管理システム確立の検討



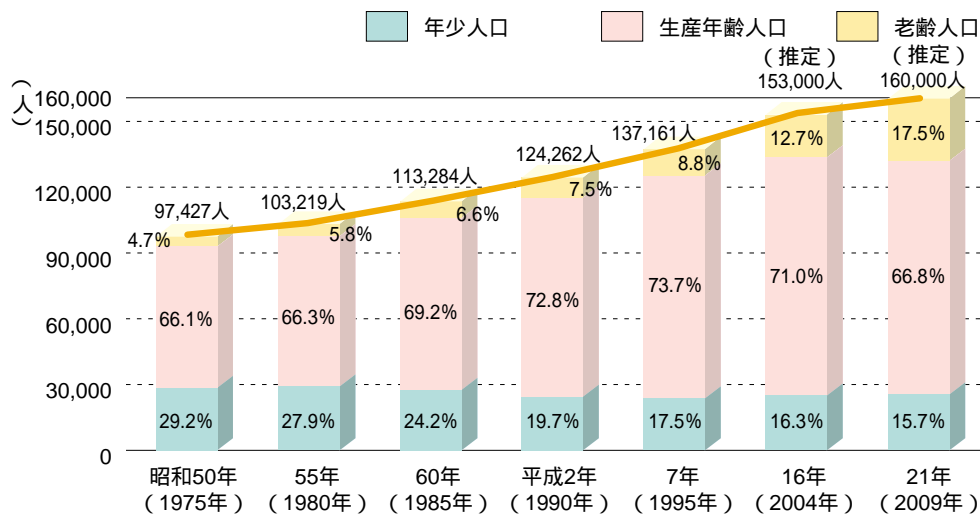
土地利用構想

「土地利用構想」と「まちづくりの基本指標」は、本市の都市像を実現するための基本となるものです。

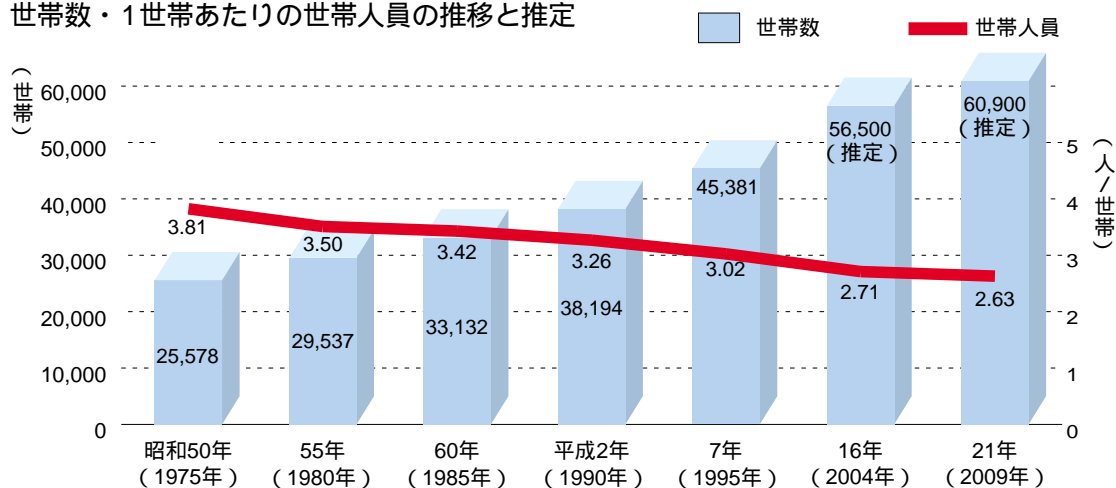


まちづくりの基本指標

年齢階層別人口推移と推定



世帯数・1世帯あたりの世帯人員の推移と推定





小牧市

小牧市民憲章

昭和60年5月15日制定

わたくしたち 小牧市民は、小牧を

- 1 健康で生きがいのある 明るいまちにしましょう
- 1 感謝と思いやりのある あたたかいまちにしましょう
- 1 緑とやすらぎのある 美しいまちにしましょう
- 1 高い文化と教養のある 豊かなまちにしましょう
- 1 希望と働く喜びのある 活気あふれるまちにしましょう



古紙配合率100%再生紙を使用



環境にやさしい大豆油インクを使用しています。